

自然豊かな中山間地域の テレワークセンター 「森のイノベーションラボFUJINO」 (森ラボ) について

- 01 森ラボの概要
- 02 森ラボにおける関係人口拡大に向けた交流促進の取組

令和5年4月

緑区役所地域振興課



森ラボトピックス

- **登録者** **665人（令和4年度末）** 【令和3年度末 396人】
- **利用者** **1,470人（令和4年度実績）** 【令和3年度 2,011人】

※有料化に伴い令和3年度実績から減少（一部利用無料曜日継続）

- **令和4年度イベント** **50回開催431人参加** 【令和3年度 12回】

※定員超講座:シニア向けスマホ教室、Web3.0（DAO、NFT）等の勉強会
スマホを活用した写真や動画編集講座 など

- **森ラボプロジェクト（地域が主体となって地域課題を解決する取組）** **10案件組成**

※農産物商品開発PJ(高校生の開発したふりかけ 毎日新聞等掲載、TBS等出演)、森の家づくりPJ(神奈川新聞等掲載)

- **地域おこし協力隊を令和5年10月から森ラボで2名受け入れ**

※地域ニーズやデジタル田園都市国家構想等の動向も踏まえ、ICTの活用により中山間の地域課題に対応

- **個室ワークブースを3階に5台、2階に1台設置（令和4年8月）**

01 森ラボの概要



森ラボとは

築30年以上の藤野総合事務所会議室棟（3階建）2階・3階をリノベーションしたテレワークセンター

所在 相模原市緑区小淵2012（藤野駅から徒歩3分）

営業日 月～土曜日 8:30～19:00（日曜・祝日・年末年始を除く）

料金 有料（令和5年9月まで水・土無料）※事前予約不要。利用時に受付で利用者登録

地元津久井産の
木材を使用



感染症対策を徹底
ゆとりある空間

既存の机・椅子を
アップサイクル



コストを抑えた
既存施設のリノベ

森ラボ運営の背景

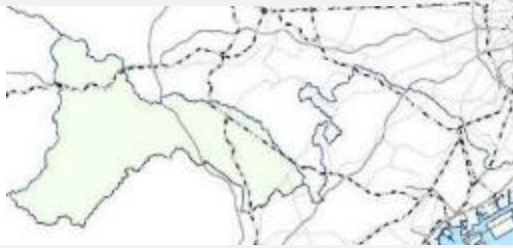
外的要因

地方移住への関心や多様な働き方へのニーズの高まり

内的要因

中山間地域の地域特性・資源を最大限に活用

中央本線・・・新宿から
相模湖・藤野まで1時間



高速道路・・・新宿から
中央自動車道で相模湖まで45分
圏央道で宮ヶ瀬湖まで1時間

都心からの距離



豊かな自然



多様な活動・資源

(多様な地域コミュニティ・体験メニュー等)

多様な働き方を支える**テレワーク拠点**、
人と仕事を繋ぐ**交流拠点**として運営を開始
(令和3年7月～令和4年3月：実証運営、令和4年4月～：本格運営)

森ラボの運営コンセプト

SDGs with ART

～個性豊かな地域と繋がるハブとなり、イノベーションを生み出す拠点～

なぜSDGs with ART??

アートな視点

- 森ラボ周辺は、恵まれた自然環境などを背景に300人以上のクリエイターが移住しており、芸術のまちとして有名

SDGs

- 日本初のトランジションタウン（地域通貨よろづ屋、藤野電力など市民が地域力を高めることで持続可能な社会に移行させていくための活動）、パーマカルチャー・ジャパン（持続可能な農業をもとに人と自然が豊かになるような関係を築くため、パーマネント(永続性)、アグリカルチャー(農業)、カルチャー(文化)の視点で取り組む活動) など持続可能な社会に向けた取組が地域で先行

地域と共創

- 地域の活力を生かして人のつながりを誘発し、アートでクリエイティブな思考や発想、SDGsの取組に触れる機会の提供などを行うことが可能な、かつイノベーションを共創で生み出せる人材が在住

森のイノベーションラボFUJINO 内覧図(2階)

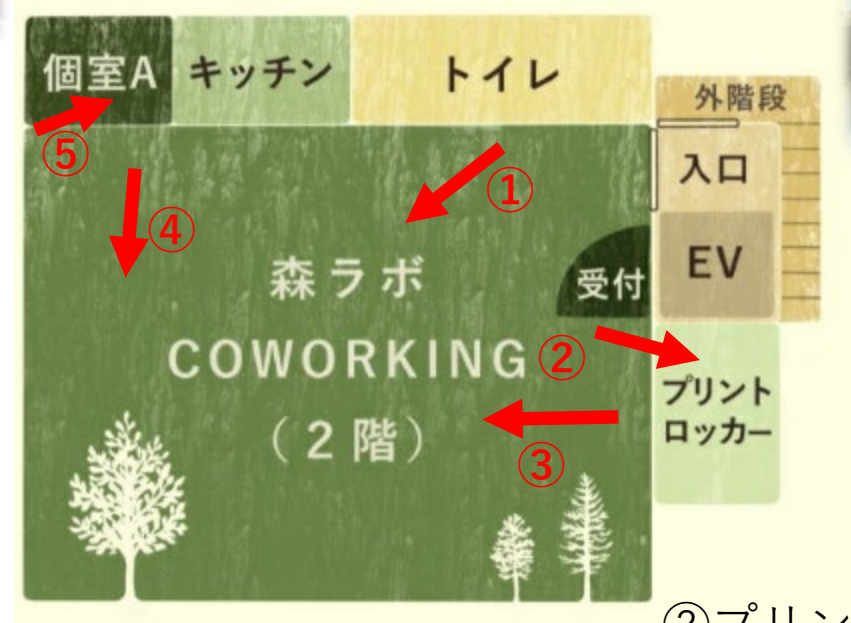
①森ラボCOWORKING



⑤個室A





③④森ラボCOWORKING



②プリント・ロッカー



| | |
|--|--|
|  Wi-Fi 6 |  ミーティングルーム |
|  電源 |  パーソナルブース |
|  複合機 |  休憩スペース |
|  ロッカー |  オールジェンダー トイレ |

森のイノベーションラボFUJINO

内覧図(3階)

⑤会議室 A



⑥個室 B



①森ラボOFFICE



③④森ラボOFFICE



②会議室 B



森ラボ利用案内

◆運営者（公募型プロポーザルにより選定）

アーキタイプ・藤野エリアマネジメント企業連合

※ 18歳の高校生から78歳のシニアが活動

◆利用方法

初回窓口において利用登録申込（事前連絡不要）

◆利用料

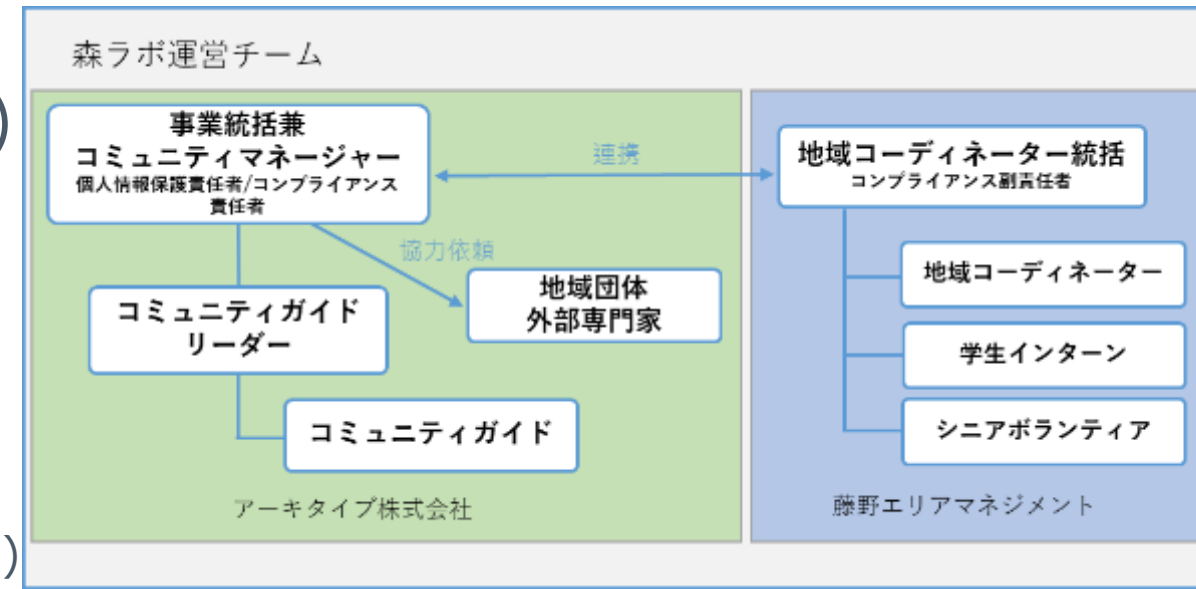
- ・正会員 7,700円/月（税込）個人での利用を行う場合
- ・法人A会員 13,200円/月（税込）従業員数5名以下で1名/日の利用の場合
- ・法人B会員 33,000円/月（税込）中小企業で利用人数が3名/日までの場合 など

※登記・郵便受取可能

※令和5年9月まで水曜日・土曜日の2階利用は無料

※森ラボイベント参加は無料（森ラボプロジェクトは要相談）

詳細は「森ラボ」ホームページ（QRコード⇒）



02 森ラボにおける関係人口拡大に向けた交流促進の取組



森ラボの3つの取組

SDGs with ART

森ラボ主催の イベントへ参加

SDGs関連のイベントを中心に、起業や副業等のイベントを定期的で開催

プロジェクトへの 参加・立ち上げ

利用者同士で共通のテーマに取り組む「プロジェクト」を立ち上げ及び運営支援

快適な 空間での仕事

テレワークセンターとして、仕事に集中するための機能の確保

交流促進

多様な働き方の支援

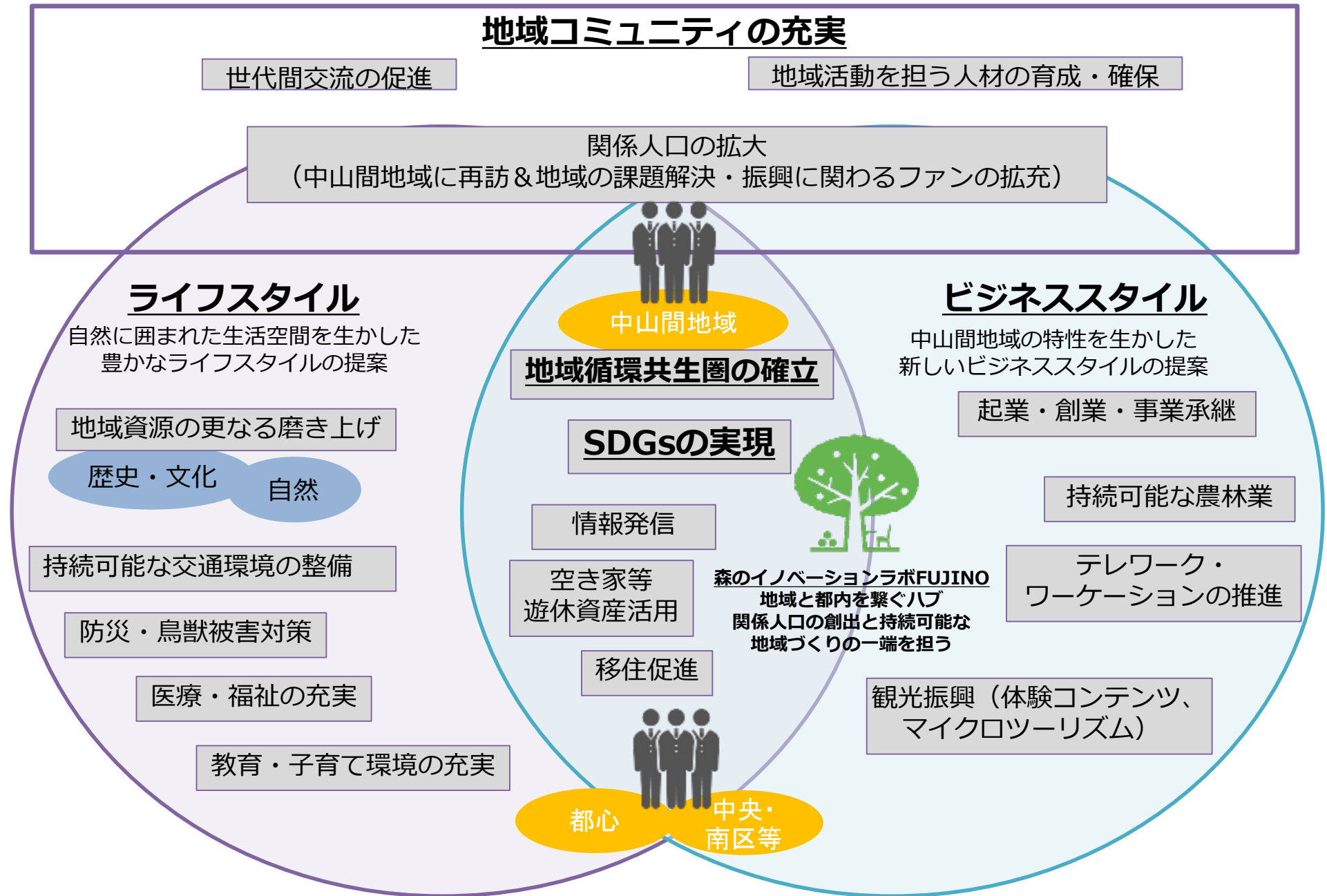
4つのゴール

- ① 森ラボの自立的かつ持続可能な運営
- ② 都内等地域外からの関係人口の拡充を通じた移住・定住促進
- ③ 各活動の充実による新たな出会い・つながりからイノベーションを創出
- ④ SDGs取組先進地域として様々な社会課題の解決

森ラボにおける交流促進の取組

- ◆ 森ラボを交流拠点とし、
実証運営を通じて必要性が見えた「人をつなぐ」交流促進機能を強化
※ 都内をはじめとする市外、中央区、南区などからの関係人口拡充
- **森ラボビジネス支援**
IT教育等による人材育成、地域と都心の企業や個人とのマッチングの支援
- **森ラボ魅力発信**
中山間地域の魅力的な商品や特産品の展示・試供・販売、マルシェの開催等
- **森ラボプロジェクト支援**
プロジェクトの立ち上げと円滑な運営等を支援

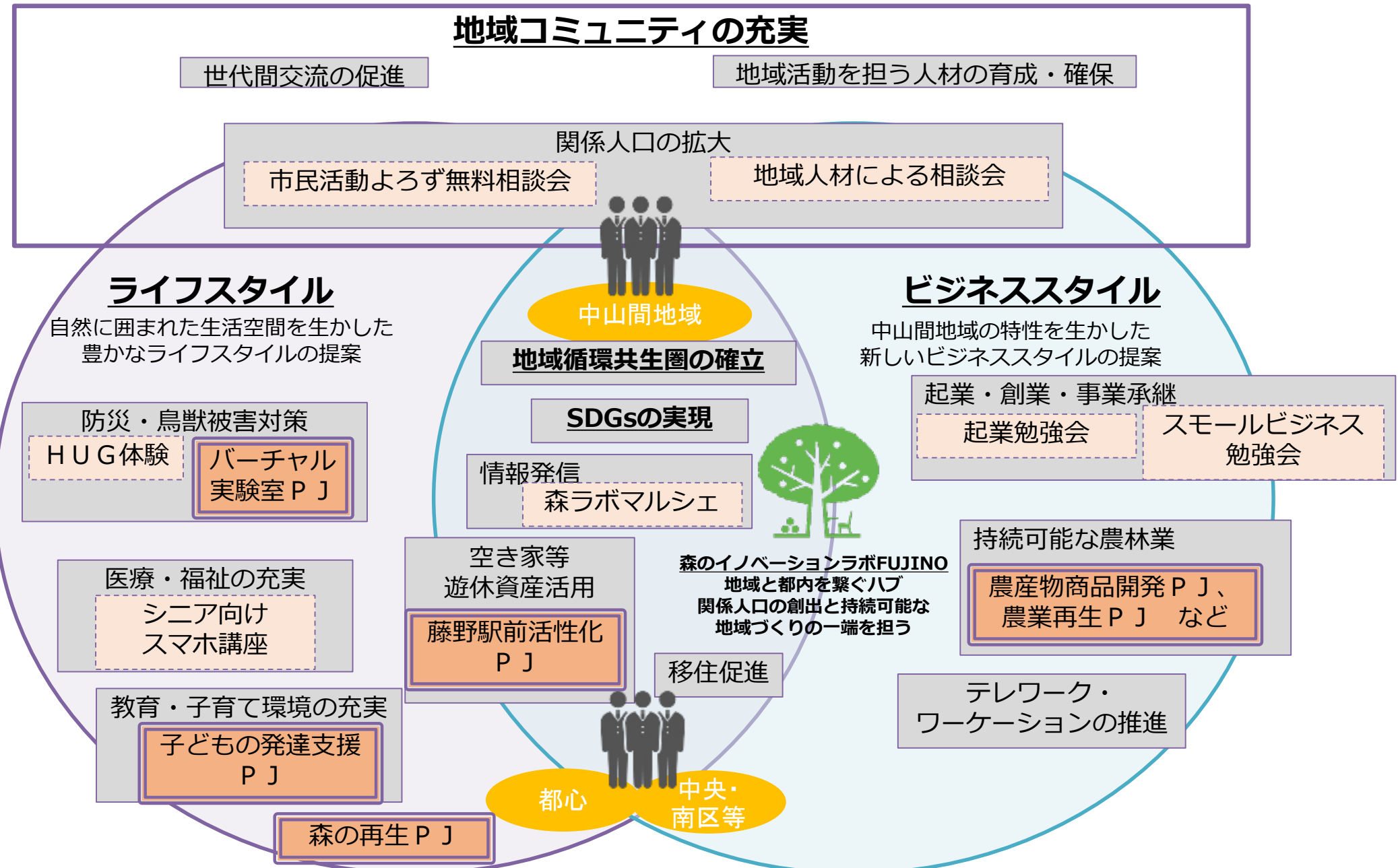
中山間地域の目指す姿 (令和3年まち・ひと・しごと創生本部会議資料)



中山間地域の目指す姿の実現に向けた森ラボの主な取組

森ラボ
プロジェクト
(PJ)

イベント



森ラボにおける主な交流促進事例

令和4年度イベント 50回開催 431人参加

主なイベント

- **Web3.0勉強会（DAO、NFT等）**

地域在住のIT会社代表による新規ビジネス検討

- **シニア向けスマホ講座**

LINE操作など初級・中級スマホ操作支援

- **スマホを活用した写真や動画編集等講座**

専門家によるビジネス等を視野に入れた技術レクチャー

- **地域医療・介護の未来お話し会**

訪問診療等の試行など地域医療の課題及び対策検討

- **市民活動よろず相談会**

さがみはら市民活動サポートセンター出張相談

- **おとなのくりえいと～アートは心の一次産業～**

紙粘土やアクリル絵具などを使った自由な創作活動

- **子ども向け夏休み企画～貿易ゲームで国際問題を学ぼう～**

世界経済の仕組みなどを体験する英国で開発されたシミュレーションゲーム



現在進行中の10プロジェクト（PJ）



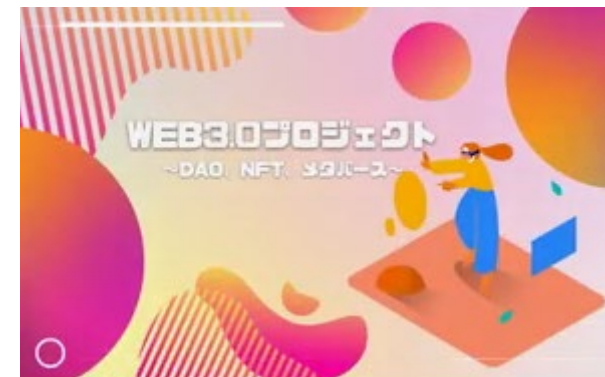
森の再生PJ
フィールドワークなどの活動を通じたナラ枯れ対策、炭の蓄電池の制作など



森ラボビジネスPJ
ワークショップ等による副業・副業・モザイク就労の支援など



子どもの発達支援PJ
地域の発達障害児支援に向けたNPO化の検討



WEB3.0PJ
DAO、NFT、メタバースを活用した地域のビジネス化検討



農産物商品開発プロジェクト
規格外野菜の活用など



藤野駅前活性化プロジェクト
空き店舗（旧コンビニ）の利活用



農業再生プロジェクト
キッチンカーを活用した移動型マルシェ



コンパ応募プロジェクト



VRプロジェクト



森の家づくりプロジェクト

▶ 地域の特徴を生かした新たなビジネス拠点づくり

森ラボ（森のイノベーションラボFUJINO）交流促進パッケージ

■ 対応する課題

- ・人口減少・少子高齢化に伴うコミュニティの減少への対応
- ・森ラボプロジェクト及びイベントを通じて、住民・事業者のICTへのニーズが顕在化
- ・津久井・相模湖地区のコミュニティとの更なる交流促進

■ 令和5年度以降の取組の方向性（案）

- ・森ラボにおけるビジネス支援、プロジェクト支援等を通じて地域活動の担い手確保支援及び**交流促進拠点としての機能強化**
- ・デジタル田園都市国家構想も踏まえ、SDGs with ARTをコンセプトとして、様々な社会課題をデジタルという切り口も含めて解決

ライフスタイル対策

ビジネススタイル対策

【関係する所属】
緑区役所地域振興課

事業概要

森ラボにおける取組

森ラボビジネス支援

副業等スモールビジネス講座、事業承継・地域・都心間の企業・個人マッチング支援
農業・医療課題検討、NPOよろづ相談会

森ラボプロジェクト支援

7件のプロジェクト活動支援
(森の再生・商品開発・農業再生等)

森ラボ魅力発信

森ラボマルシェ@中央道藤野PA下り
大人向けアート工作、地域通貨よろづ屋普及
子ども向け社会課題解決ゲーム 等



地域おこし協力隊による
交流促進機能の強化

ICTを活用した
社会課題解決、地域振興

農業、医療、観光など
顕在化したニーズへの
デジタル化による
業務効率化、情報発信

地域内外を結ぶ
拠点としての交流促進

森ラボ（森のイノベーションラボFUJINO）交流促進パッケージ

地域おこし協力隊の受け入れについて

地域おこし協力隊概要

- ・都市から条件不利地域のある自治体に移住し、地域ブランドPR等の地域おこし支援、農林業従事、住民支援等の地域活動を行い、地域定住を図る取組（国基準額(4,700千円/年)内は特別交付税措置率10/10）
- ・任期1年以上3年以下
- ・隊員数：6,005名、自治体数：1,085 県市町村(R3) ※本市は山村振興法に基づき「一部条件不利地域」として受入対象

森ラボにおけるこれまでの取組を通じた主な課題

利用者ニーズ例：スマホ写真講座、スマホ動画編集、シニア向けスマホ講座、スモールビジネス講座が募集8割以上または満員の参加状況
事業者ニーズ例：農業のデジタル化（生産管理）、医療のデジタル化（地域の専門医可視化）、行政施策の参加促進に向けたデジタル化（PAYPAY払い、GO TO TRAVEL事業者エントリーなど）、観光のデジタル化（webや携帯アプリによる情報発信）

⇒プロジェクトやイベントを通じ、中山間地域のビジネス・ライフスタイルの充実に向けてICTを活用した様々なニーズが存在

交流促進機能を強化するために地域おこし協力隊を活用する理由

専門人材として新たに移住を受け入れ、最大任期3年終了後もICT領域における地域の重要な担い手として継続的な活動を促進するため

森ラボで受け入れる理由

- ・具体的なニーズを把握している
- ・様々な社会課題解決に向けた森ラボプロジェクトの組成及びその推進体制が確保されている
- ・登録者530人以上のネットワークを保有し、中山間地域全体（津久井・相模湖・藤野地区）をフィールドとした取組が可能である
- ・ICTに一定のスキルを有するスタッフやプロジェクト参画者との相乗効果による新たな取組の可能性が広がる

活動内容

ICTに精通した2名を採用し、森ラボに委託

- ・上記利用者・事業者ニーズに呼応した活動
- ・緑区特設サイトなどを生かした交流・関係人口の拡大に資する中山間地域の魅力発信

スケジュール（3年後の定住及び起業等を見据えた取組）

R5 上半期募集・採用 >> R5.10～活動開始（1年目：実践例の積上げ・地域との融和、2年目：横展開の連携、（3年目起業等準備））